

「知の拠点」整備構想改訂に係る意見書まとめ

資料1

着眼点(1) 京都工芸繊維大学福知山キャンパスの廃止に伴う「知の拠点」の在り方

【現状と背景】 平成30年に策定した本構想は、福知山公立大学と隣接する京都工芸繊維大学が「福知山キャンパス」を北近畿地域の地方創生を牽引する「知の拠点」と位置付け、地域を担う人材の育成、若者の定着、産業振興、地域活性化に繋げることを目的に策定したものです。 しかし、京都工芸繊維大学は令和8年3月をもって福知山キャンパスを廃止されました。今後は、福知山公立大学が単独で「知の拠点」の機能を担うこととなります。	
1	福知山公立大学が単独で「知の拠点」の機能を担っていくにあたり、特に強化すべき機能・役割はどのようなものだとお考えですか。
A	地域課題を解決するためのシンクタンク機能の強化が必要だと思われます。また、その際に、地域内外の人材の交流機会を創出する機能を強化することが有意義だと考えます(事業者や行政と教職員との研究会の開催、学生が一部関われるような事業者間の交流の場の設定など)。
B	福知山公立大学が単独で全てを抱え込むのではなく、同大学を中核に、地域企業・行政・高校・高専・外部大学・金融機関・市民をつなぐ「ネットワーク型の知の拠点」へ再定義することが重要だと考えます。 特に強化すべき機能は、第一に、地域課題を教育・研究テーマに翻訳する機能、第二に、学生に実践経験・資格・就職接点という卒業後の武器を授ける機能、第三に、地域企業のDX・人材育成・事業承継等を支援する産学官連携機能、第四に、小中高大から就職・Uターンまでをつなぐ人材循環機能です。
C	北近畿地域が抱える「人口減少・中山間地域の維持・産業後継者不足」という課題に対し、現場に入り込んで実践的に解決する「現場密着型(フィールドワーク指向)の知の拠点」として専門性の高い価値を生んでいくことを求める。 ※現場に入り込んでの意味では、地域経営学部はスタートラインには立っていると思われる。
D	京都府北部唯一の大学で有り、北部を代表する大学としてのイメージが必要と思う。フィールドとしてある6000億円を超える製造業・600万人を超える観光産業があり、日本海側では、評価に値するエリアであると思います。20数万人の人口を誇るこのエリアをどう生かすのかではないでしょうか。
E	公立の小学校、中学校、高校との連携(探究活動の支援など) リカレント教育 若者が少ないエリアへ大学生の活力を注入することで存在感を。
F	「知」の拠点とは、学生が「学ぶ」ことと、学んだことを地域の中で実際にやってみる事、更にその結果を修正していく事で学びも深まり、高まりが生まれてくると思う。 学生、教員が地域に入り(例えば、子供から、高齢者まで多様なところまで入れる環境づくりをする)学生が色々な現場に入り行動を起こすことによって地域住民が気づかないところもみえてくるのでは。
G	「知の拠点」に求められることや単独で「知の拠点」を担うことができるのかについて整理・検討した上で、地域・企業・学校との連携体制を構築していくことが必要だと考えます。

着眼点(1) 京都工芸繊維大学福知山キャンパスの廃止に伴う「知の拠点」の在り方

2 京都工芸繊維大学との連携で期待されていた機能(理工系分野等)を補完・代替するためにどのような方策が考えられますか。	
A	・上記の地域内外の人材の交流機会の創出と、そうした場への学生、教職員の参加 ・他大学との単位互換制度の充実
B	京都工芸繊維大学との連携で期待されていた理工系・技術系機能は、不動産や施設の取得だけで補完するのではなく、人材・テーマ・設備・外部ネットワークを組み合わせることで補完すべきです。具体的には、舞鶴高専、京都府立工業高校、長田野工業団地等の地域企業、外部大学の理工系教員・企業技術者を巻き込んだ客員・非常勤・共同PBLの仕組みを構築すること、情報学部を核に地域産業DX・公共DX・防災DX等の実装テーマを体系化することが考えられます。理工系補完は「固定的な2大学連携」から「開かれた技術人材ネットワーク」へ転換するのが望ましいと考えます。
C	情報学部教授陣の一層の活躍。
D	企業との連携強化
E	1 京都工芸繊維大学の綾部地域連携室に依頼する。 2 福知山公立大学情報学部が担う。 3 大学でできないのであれば、地元企業や京都府立工業高校の力を頼る。 ※補完・代替できなくても構わない(やむを得ない)内容もあると思います。
F	理工系を広くとらえるのではなくて、当面は可能性のある分野に絞ればいいのでは。
G	福知山公立大学他大学とのつながりに加えて、京都府や各市町でも多くの大学との連携を行っており、福知山公立大学が連携の拠点となることで必要な機能が地域へ還元されと考えます。視点を広げると、理系分野の研究・教育機関として舞鶴工業高等専門学校(以下舞鶴高専)がございます。 舞鶴高専では、高等部の卒業後、4年制大学へ編入する生徒もいることから、連携することで京都北部の人材育成や若者の定着につながると考えます。 舞鶴高専との連携について、現在行われていることや今後の方針等ございましたらご教示いただけますと幸いです。

着眼点(1) 京都工芸繊維大学福知山キャンパスの廃止に伴う「知の拠点」の在り方

3 その他、「知の拠点」の在り方についてお気づきの点があればご自由にお書きください。	
A	—
B	今回の改訂では、旧構想の「隣接する2大学による文理連携拠点」から、「福知山公立大学を中核とし、北近畿の産業界・教育界・行政・外部専門人材が参加する開かれた知の拠点」へ概念を更新できると良いかと思います。 またその際には、理念形成だけではなく、学生募集、地元高校からの進学、地域企業との共同プロジェクト、北近畿就職・Uターン、外部資金獲得などのKPIを重層的に設定し、構想成果を将来的に検証できる構想にすることも一案ではないでしょうか。
C	福知山城・明智光秀等に光を当てて、「歴史から学ぶ講座」等、特色ある講義の創作など。 また、「後継者育成事例研究専門講座」開設。
D	各大学で外国語学部が衰退している様に、語学を身に着けれのは必修時要件となっている時代です。 英語力の必須化や福知山市をはじめ近隣の市町の姉妹都市などへの短期留学制度を必修にするとかにより誇りを持つ学生の育成。
E	人口減少、少子高齢化、地域交通、医療福祉、防災、地域経済活性化、移住定住政策などを継続的に調査研究し、福知山市に対して、政策提言を行う「地域シンクタンク」としての役割を強化できないか。
F	大学を卒業すればほとんどが、他都市へ出ていき福知山に戻ることが少ない。 ・福知山なら自分のやりたいことが出来ると思う環境を作る。 ・福知山なら自分を必要としてくれる環境(仕事・趣味) ・公立大学は地域の宝的な存在である思う。他府県から来る学生は福知山市民にとってありがたい存在である。地域を挙げての「知」の拠点づくりが出来れば。
G	これまでの経緯として、「学びの拠点」として福知山公立大学が設置され、京都工芸繊維大学と共に「知の拠点」として位置づけされたものと理解していますが、単独で知の拠点を担うことは可能でしょうか。 福知山市は「教育のまち福知山」と認識しており、今も多くの小、中、高校が福知山公立大学と連携しています。地域の高校等や企業との連携なども新たな知の拠点構想の中に入ってくるのではないかと考えます。

着眼点(2) 18歳人口の減少に伴う学生確保 ―「選ばれる大学」総合戦略

【現状と背景】

我が国の18歳人口は令和17(2035)年以降、「崖」と呼ばれる急激な減少局面を迎えます。令和17年までは10年かけて10万人程度の減少にとどまりますが、その後は3年・2年・2年のテンポで10万人ずつ減少し、2040年には74万人まで落ち込むと言われています。

地方の公立大学として情報系・地域経営系の学部を有する全国の大学との競争が激化するなか、福知山公立大学が「選ばれる大学」であり続けるためには、①誰をどのように迎え入れるか(入口戦略)・②在学中に最高の学びと生活を提供するか(在学中の充実)・③卒業後の姿が次の受験生を引き寄せるか(出口戦略)の3つを一体的に強化する総合戦略が必要です。

4 18歳人口が急減するなかで、福知山公立大学が「選ばれる大学」であり続けるために、入口戦略(誰をどのように集めるか)の観点から特に重要だとお考えの取組をお聞かせください。

A	地域での実践と結びついた教育内容に魅力を感じる高校生のためにも、探究学習の能力や非認知能力をはかるような入試の在り方(総合型選抜の具体的な方法)を検討することも有用であるように考えます。
B	学生確保は、単なる広報や入試制度ではなく、大学の価値提案の問題として捉える必要がありそうです。まず、学生・保護者・高校教員から見て、福知山公立大学に進学すると何が得られるのかを明確化することが重要です。 地域経営、情報、教職課程、資格、実践型PBL、地域企業との接点、就職支援を一体化し、「卒業後に使える武器」を授けてくれる大学、という看板はしっかりと打ち出すべきではないでしょうか。 加えて、受験・入学対象者属性については一定的に解析し、出身地域、併願校、受験理由、辞退理由、入学理由、などについて継続的に深掘りし、特に「地元高校生に福知山公立大学が <u>選ばれない理由</u> 」を把握してクイックに改善する、マーケティング的なPDCAを回していく必要があると思います。
C	①高大連携の進化強化。高校生に「地域課題解決」のコンテストを実施、公立大学教授陣が指導・評価するなど、地域意識の連携を図ってみる。 ②総合型選抜(AO入試)を取り入れ、地域意識の強い学生の取り込み、また地域優先枠を設ける。 ③福知山公立大学のPR戦略の強化、ブランド構築、SNSで取り上げられるような何か(マーク・スローガン・特徴ある造形物・・・)
D	卒業生の社会に出てからの活躍が大きなカギです。卒業後の進路も大事ですが、数年後の離職率も高く、その後に大学でのポリシーが生きてくるのではないかと思います。 新制大学であるほどに単純明快なポリシーが必要なのではないのでしょうか。
E	授業料等の負担の軽減制度、学校推薦型選抜(地域枠)の見直し、広報活動の充実(先生方や学生の研究成果、地域での取組の実績)
F	高校生へ明確な発信が重要であると思う。 ・公立大学で学ぶことの魅力(どんなことが学べるのか、どのようにして学べるのか) ・生活の基盤となる福知山の魅力(北近畿での位置づけ、日本海、関西圏、北陸エリアのアクセス)も大切ではないか。 1学年・2学年ぐらいから、地元の企業(アルバイトでもいい)などで働き仕事の面白さ、人とのつながりなどがあるようになればいいと思う。 大学以外に学生が集まれる場所があればいい。(娯楽施設・映画館・商業施設など)学生が休日に都会に行かなくてもくつろげる場所など

4 18歳人口が急減するなかで、福知山公立大学が「選ばれる大学」であり続けるために、入口戦略（誰をどのように集めるか）の観点から特に重要だとお考えの取組をお聞かせください。

G

18歳人口の減少が進む中、京都の各大学が規模縮小に動いているというわけではなく、それぞれ工夫して学生数を獲得しています。今後も学生を確保していくためには、この大学で学ぶことのメリットを多く見せていくべきと考えます。

まずは現在の規模について、適正な規模なのか、今後の学生数は何名を目標としていくのかを改めて確認し、必要な取組を検討いただきたい。

福知山公立大学は、地域をフィールドに学び、研究を行うことが大きな特色であると考えます。例えば、まちかどキャンパス吹風舎やビエラ福知山での公開事業など、まちそのものがキャンパスであるという見せ方などを継続してはどうでしょうか。

着眼点(2) 18歳人口の減少に伴う学生確保 ―「選ばれる大学」総合戦略

5 学生が「来てよかった」と感じ、誇りを持って周囲に勧めたくなる大学にするために教育・学生支援の面でご意見があればお聞かせください。	
A	卒業生ネットワークの強化と現役学生との交流の場の創出も有用であると思います。
B	在学生の口コミは受験生・保護者への重要な訴求になります。 教育面では、地域経営と情報を横断する実践課題、企業・行政・学校現場とのPBL、長期インターン、ポートフォリオ化できる成果物、教職課程・資格取得支援などに強化余地があり得るでしょうか。 学生支援面では、キャリア相談、メンター制度、奨学金・生活費負担への配慮、食堂・学生活動スペース・交通アクセス等の生活環境を整えることが想起されます。 学生が「この大学で成長できた」と語れる体験を体系的に設計することが、次の学生募集にもつながると思います。
C	—
D	北部に住む住民の意識をどう変えるかです。
E	学生が成長を実感できる教育を提供し満足度を高める(資格取得、自己有用感、大学院進学への支援、留学制度の充実)、一人暮らしの生活支援の充実(食事面、アルバイト、住居)、企業からの奨学金、同じような大学(学部学科)への留学制度、福知山市の住みやすさ
F	第一には、「安心・安全」なことだと思う。 若者にとって生活しやすいまち、若者が集える街づくり。 地域・市民との交流を盛んにし、ゼミ・フィールドワークなどで対話により生の声を聞くようにし、将来に生かしていく。
G	学生の意見について聴取したものがあれば、ご教示いただきたい。

着眼点(2) 18歳人口の減少に伴う学生確保 ―「選ばれる大学」総合戦略

6	「卒業後の姿が選ばれる理由になる」という出口戦略の観点から、就職・定着・キャリア支援についてご意見をお聞かせください。
A	上述した地域内外の人材交流の場(事業者や行政と教職員との研究会の開催、学生が一部関わられるような事業者間の交流の場の設定など)の運営に一部学生が関わる機会を設けることも有効ではないかと思います。
B	出口戦略では、単なる就職率だけでなく、職種・勤務地・地元企業との接点・卒業後の人生の豊かさ、個としての成長可能性を訴求できるとよいのではないのでしょうか。 地域企業との長期インターン、地元企業課題を扱う卒業研究、地域企業の採用広報支援、OB/OGネットワーク、Uターン支援、奨学金返還支援等を組み合わせることで、卒業後の姿を将来受験生が手触り感を持って感じられるようなアピールが効きそうです。 特に北近畿圏内就職率、福知山市内就職率、Uターン率、地域企業での活躍事例を可視化し、「地元に残る」「一度出ても戻る」「地域と関わり続ける」複数のライフ/キャリアパスを提示してみてはいかがでしょうか。
C	①OB(同窓会)の組織はあるのでしょうか？卒業生が「私の大学」として胸を張れる状況づくり指針作りがあってよく、在校生がOBを頼る流れが通常化されて良いと思います(今以上に)。 ②地元志向の強い学生に、福知山企業への就職をアピールする場の提供、大学内でのPRの日みたいなものを作ることも…。
D	フィールドワークとして地域産業にどれだけ入り込めるかではないのでしょうか。
E	北近畿を支える人材を輩出しているという大学イメージづくり(自治体職員・地元金融機関員、起業家の育成)
F	学生時代に学んだことを即卒業後に生かすために、「産学連携」が大切では。
G	卒業後の進路も着目されるが、学生時代のどのような活動や支援が今につながっているかを見せることもできる。 地方には仕事がないイメージを大学の卒業後の姿の見せ方で払拭することもできるのではないか。当事者である学生の意見を反映するのが一番かと考えます。

着眼点(2) 18歳人口の減少に伴う学生確保 ―「選ばれる大学」総合戦略

7 その他、学生確保・「選ばれる大学」戦略についてお気づきの点があればご自由にお書きください。	
A	—
B	大学の競合は、同じ偏差値帯の他大学だけではなく増えてきていそうです。 高卒で大企業・インフラ企業に就職するルート、高専に進むルート、専門学校や企業内教育も、学生・保護者にとって現実的かつ魅力的な選択肢かと思います。 4年間の学費・生活費・機会費用を上回るリターンをどう提供するかは、顧客起点の大学経営に於いて中心的な経営論点ではないでしょうか。 地域経営×情報×実践経験×資格・進路支援等々の観点などで、福知山公立大学が提示し得る複合的価値を今一度結晶化して提起する好機かと考えます。
C	①シンボル ②目立つ造形物・福利厚生の意味含めて ③新しい食堂の建設等。
D	—
E	プロジェクトといった取組(防災、空き家再生、地元で起業など)、学生による大学広報(チーム、SNSなど)
F	福知山にある公立大学の特性を生かし(過疎化・高齢化・人口減少など)をフィールドワークに取り入れ興味を持たせる。
G	—

着眼点(3) 小中高大連携

【現状と背景】

福知山公立大学は北近畿地域唯一の4年制公立大学として、地域の人材育成の中核を担っています。京都府立福知山高等学校(令和6年10月)・京都府立工業高校(令和8年3月)との協定を締結し、協定締結校に限らず出張講義や協働支援を実施しています。また、地域の小学校による大学見学の受入れや、中学生を対象としたキャリア教育なども実施しています。

小中高大連携は、地域の子どもたちが地元の大学への進学を自然な選択肢として考えるようになる入口戦略としての機能と、大学生が地域でキャリアを語り地域への愛着を育む出口戦略としての機能の両方を持つ重要な施策です。高大連携の深化とともに、中学校連携の強化が今後の課題となっています。

8 小中高大の連携をさらに充実させるために、どのような取組が効果的だとお考えですか。

A	大学の地域課題に関する教育研究の一部に小中学校、高校も参加する機会を充実させることが有効だと思われます。
B	小中高大連携は、単発の出張講義や大学見学にとどめず、地域産業理解、探究学習、大学での学び、将来キャリアをつなぐ一貫したパイプラインとして設計できそうでしょうか。 例えば、JobExpoを中高生が地域産業を知る入口として位置づけ、福知山高校、京都府立工業高校、北近畿・兵庫県側の高校などとも連携し、高校段階で地域企業・行政課題をテーマにした探究PBLを行い、大学教員・大学生・企業人が伴走する仕組みなどもあり得そうです。
C	産学連携は当然のこととして、「広報チーム」の連携強化が必要と思います。 定期的な情報共有で「福知山広報会議」的なことがあってよいと思います。
D	地域の小中高の先生方に大学との触れ合う場がもっと必要ではないか。
E	小中学生が福知山公立大学を訪れる新たな機会の創出(見学レベルでもよいのでは。)
F	現在取り組んでいることを充実させていく。 小学生・中学生・高校生それぞれに応じた課題を考えて学生に取り組ませていく。 共同学習により、まなぶことが面白いと思える取り組みの継続。
G	小中高大連携及び学生確保の観点から、これまでの連携を格上げした府の系属校なみの連結システムを検討できないかと考えます。 京都府立大学では、今年度の入学選抜試験より、農芸高校と北桑田高校の系属高校化のスタートとして、独自の入学者枠(系属校枠)を設定します。高大連携を進化させる取組でもあります。 福知山公立大学では、すでに北近畿地域枠(地域経営学部12名、情報学部10名)が設けられていますが、現状では十分に充足できていない状況があると伺っています。地域枠の存在そのものは、高大連携や地域人材・専門人材の育成を進めるうえで大変意義があります。一例として、府立工業高校から情報学部への進学など、北部地域の高校と大学をつなぐ明確な進路モデルを示せることは大きな魅力です。 単に地域枠を設けるだけでなく、これまでの高大連携をさらに発展させ、京都府立大学の系属校制度に準じたような継続的な連携の仕組みを検討することで、地域枠の認知度向上や志願者確保につなげていくことが必要ではないでしょうか。

着眼点(3) 小中高大連携

9	若者が地域の大学に進学し、卒業後も残るという好循環をつくるため、大学・市・地域が果たすべき役割についてご意見をお聞かせください。
A	次のような取組みも有用であると考えます。 ・大学での地域課題の研究教育と結びついた事業創造の支援(大学) ・卒業後も地域で働き続けることを要件とした奨学金制度等(市、地域)
B	大学は教育プログラムと地域連携の設計主体、市は産業界・高校・周辺自治体をつなぐオーケストレーター、地域企業は課題テーマ・メンター・インターン・採用/雇用機会を提供する主体などとして役割分担の形を明示的に定義していけると良いと思います。 また、好奇心旺盛な若者の地元定着を志向することには一定の限界もあるため、卒業/就職後に一度福知山を去った若者が、数年後にUターンを企図してくれるような雇用窓口と地域に住まうことの統合的魅力をどう用意して訴求するかにも目配せすべきかと考えます。
C	すでにされてますが、学生が実証実験的に街に乗り出して体験を含める学習が(地域との交わりを感じる体験学習)の積み重ねの経験が福知山の魅力確認に最適と感じます。
D	地域にどのような職業が有るか、もっと知る機会が必要ではないか。
E	「希望する仕事が少ない」に対する企業を知るための取組、「暮らしの魅力」の創出(ターゲットは若者だけではなく、水資源・森林資源・農地を活用したい人)、奨学金の返済免除制度(消防団員のように)若者がお客さんではなく、地域の一員として活動できる場の提供が必要ではないか。
F	行政・大学・地域がもっと積極的に交流を持ち、「課題・話題」等共通の認識を持つことが大事では。それには、一番は、福知山がもっと魅力のある街になれば自然と定住者(学生に限らず)が増えるのではないか。 ある調査によると、50%以上の学生は地元就職を希望しているともいわれています。 (物価・家賃)など、その辺りから考えていく事もあるのではないか。 学んだことを直接生かせることのできる産学連携と、大学生の地元採用(市職員として)
G	大学・市・地域が一体となり、学生に地域の企業や雇用の情報を多方面から発信することが必要と考えます。 学生や先生方は北近畿の多くの市町で活発に活動されていると存じますが、市町によって行政や地域に学生の活動や大学の存在が見えておらず、大学に距離を感じている地域も存在します。 より北近畿の他の市町を巻き込んで取組を行うことが必要ではないでしょうか。 そして、地域で学生を受け入れる、若い人材を確保する機運を高め、若者が働きやすい環境を整備することにつながると考えます。

着眼点(3) 小中高大連携

10 その他、小中高大連携についてお気づきの点があればご自由にお書きください。	
A	—
B	—
C	小中高大に共通の課題を研究発表する場を設定する。(例えば、「人口減少対策」)
D	—
E	地元中学校・高校での教育実習の支援
F	学生が小中生と一緒にいる所(交流会・お祭りなど)をあまり見ないので、待つばかりではなく、大学側からも各関係機関、学校、地域に積極的(情報などをもらいに)に入り込んでいく事も大事では。
G	—

着眼点(4) 地域連携・産学官連携

【現状と背景】

地域連携・産学官連携のハブとして「北近畿地域連携機構(Kita-re)」を令和2年4月に設置しました。地域と大学を繋ぐリエゾンオフィスとして、日常の交流からプロジェクトまで幅広く、教育研究の地域への還元活動を活発に行っていることは、福知山公立大学の大きな特徴の一つです。

令和7年度には連携相談88件中72件が共同研究・受託事業等へ発展(成約率約8割)。「北近畿コラボスペース」は会員数402人・連携団体数81団体(令和8年3月末)に成長し、「観音寺自治会所蔵近代史料調査・保存プロジェクト」「消防活動におけるAI支援」など、地域課題の解決に直結する実践的な活動が積み重なっています。

産学官連携においても、インターンシップ提供先の大幅増加(12件→58件)、シニアワークカレッジ延べ237人受講など着実な成果が積み重なっています。今後は、シンクタンク機能・生涯学習拠点としての機能強化、リカレント教育の充実が課題です。

11 大学と地域・産業界の連携をさらに深めるために、今後特に力を入れるべき分野・テーマはどのようなものだとお考えですか。

A	以下のようなテーマについて行政を含めて力を入れることは有意義だと思います。 ・地域内の各主体で共に進めるDX ・関係人口の創出
B	例えばの方向性案としては、 例①長田野工業団地等を対象にした製造業DX・現場改善・技能継承、 例②自治体・消防・防災・地域交通等の公共DX、 例③医療福祉・介護・地域包括ケアの経営・データ活用、 例④観光・農林業・地域資源のマーケティング、 例⑤中小企業の事業承継・採用・人材育成など でしょうか。 いずれも地域経営学部と情報学部の掛け合わせが効く領域であり、学生の実践経験、地域企業の課題解決、外部資金獲得を同時に狙えそうな視点と想像します。
C	①アナログ的には、全国各地の「地場産業の勝ち組研究」 ②次世代的には、「AIの未来」
D	地域企業が求める人材について、もっと聞く方法はないのか。
E	地元中小企業の困りごと解消(DX、ICT、課題分析、働き方)
F	福知山の特性を生かし、「農業・林業」を考えてはどうか。 現在、害獣として話題になっている「熊・鹿」対策などもテーマにならないか。
G	地域や企業のニーズや課題の明確化に特に力を入れていただきたい。 また、若者世代が集まり研修等ができる機会づくりをリアルで提供していただきたい。

着眼点(4) 地域連携・産学官連携

12 大学がシンクタンク機能や生涯学習・リカレント教育の拠点としての役割を強化していくことについて、地域・産業界のニーズや期待をお聞かせください。	
A	—
B	Kita-reなどを、例えばですが、地域課題を教育・研究・事業化テーマに翻訳する「課題翻訳・実装支援機能」として強化する方向性などがあり得そうでしょうか。 地域企業向けには、経営改善、DX、採用・定着、事業承継、マーケティング、データ活用等のリカレント教育を、短期講座・履修証明・企業内研修として提供するなどでしょうか。
C	福知山市をはじめ教育機関による広報・PR活性化で生涯学習・リカレント教育の指向を高め、公立大学がハードとしての受け皿になり、多くの福知山並びに周辺の方が公立大に来校されることになればよいと思います。
D	—
E	地元の課題の洗い出しやそれらの解決方法の提案にはニーズがあるのではないかと。
F	学生が「ゼミを通じ地域の行事・自治体や企業が企画する催し」に深く参加関わることで「この町なら暮らしても良い」と思い愛着がある街になるように仕向けて行けばいいのでは。 また、人生100年時代、その中で一人ひとりが変化する社会に対応できる学びの場の設定なども大事では。
G	生涯学習やリカレント教育の拠点としての役割の強化については、大いに期待している。 地域内での認知度を高めて欲しい。

着眼点(4) 地域連携・産学官連携

13	北近畿地域の産業イノベーション創出のために、大学との連携においてどのような取組が有効だとお考えですか。
A	大学との連携で事業者のICTの実装まで結びつけるような取組が有効だと思います。
B	例えばの取組としては、地域企業・行政の課題を年間テーマとして集約する「北近畿課題バンク」、学生・教員・企業がチームで取り組む「地域産業DXスタジオ」、地域企業向けのデータ分析・AI活用・業務改善プロジェクト、大学設備や情報系教員の知見を企業が活用できる仕組みなどがあり得そうでしょうか。 特に、企業側の業務(損益)改善成果、人材採用成果、学生の学修成果、大学の外部資金獲得等の成果KPIを企画構想段階から実施完了段階まで通貫して一体的に評価することかと思います。
C	例えば、「福知山産業支援センター」を、公立大学教授陣にお任せする。(週替わり、月替わりで教授は交代し、相談内容で別の教授に引き継ぐ繋ぐの流れを作る)これを福知山市の好事例とする。(予算の有効化と教授陣のモチベーションアップにつなぐ)
D	ー
E	大学生が企業の課題解決や新商品開発に参画する「学生参加型プロジェクト」 大学、企業、自治体が連携して新たなビジネス創出を支援する「スタートアップ・起業支援」 大学が企業向け研修やデータ活用支援を行う「企業支援」
F	従来からある農産物を見直し、気候温暖化により新たに栽培可能となりそうな野菜の選定をしその栽培方法の模索、そのために必要な地元農家との連携の構築をしていければ。
G	学生(学生記者部など)が取材などを通じて、徹底的に地域企業の情報を知ることが有効と考えます。 また、大学が持つシーズを地域企業へ積極的に発信してほしい。

着眼点(4) 地域連携・産学官連携

14 その他、地域連携・産学官連携についてお気づきの点があればご自由にお書きください。	
A	—
B	産学官連携を継続的に動かすには、教員個人の善意に依存しない運営体制とインセンティブが必要かと思います。 教員にとって研究・教育成果になるテーマ設定、学生にとって単位・ポートフォリオ・就職につながる設計、企業にとって実務的な便益がある設計、の各平仄をそろえることができると理想かと。 また例えばですが、産業界・高校・行政を含むアドバイザリーボードを設置し、毎年の重点テーマとKPIを確認する仕組みの構築などもあり得るかと思います。
C	—
D	—
E	連携相談や連携団体数はかなり多いと感じる(多すぎるのではないか)
F	産・福地山には小規模な会社が多くあるので、この程度の会社には学生に相手されないのでは思っていることもあるのでは。 学・大学側から、小規模の会社にも、こんなにいい会社もあるのだと少し敷居をさげて就職活動に持って行ければいいのでは。 学・学生が求めている福知山での就職先(観光・福祉・IT・地場産業)を大学側で発掘していく事も大事では。
G	—

着眼点(5) 施設整備

【現状と背景】
福知山公立大学の施設の多くは、学校法人成美学園から引き継いだものであり、建築から30年以上が経過している施設もあります。令和2年度の情報学部の新設に合わせて施設の増改築を行っていますが、老朽化・学生数の増加などにより、施設の整備が必要な時期を迎えています
H30構想に基づき、1号館のバリアフリー化・空調改修、3号館の情報学部講義棟への改修・ICT環境整備、4号館のエレベーター・空調改修、2号館の耐震改修など、計画に沿った整備を着実に実行してきました。
今後は令和9(2027)年度以降のおおむね10年間を短期・中期・長期に区分し、①教育研究施設、②福利厚生施設(学生食堂の更新を含む発展的整備を短期で検討)、③地域連携施設(ラーニング・commons等)、④アクセス環境の整備を計画的に進める方針です。また、旧邸宅跡地の活用方針についても第3期中期目標期間中を目途に検討を進めます。
あわせて、令和8年3月に廃止された隣接する京都工芸繊維大学の施設・土地の取扱いについても、「知の拠点」の将来的な機能強化という観点から、その活用の可能性を含めて検討すべき課題となっています。

15	「選ばれる大学」を実現するうえで、キャンパス環境として特に重要だとお考えの整備はどのようなものですか。
A	上述した地域内外の人材の交流とその場への学生の参加をうながすために、アルムナイやミーティングスペース、ラーニングcommonsなどが一体化した場の整備は有用だと思います。 その際、学生を含む地域主体が創業する際に登記可能な所在地の設定を検討することも有意義だと思われます。
B	「選ばれる大学」としての教育価値・学生体験に直結する機能を優先的に整備すべきと考えます。 例えば重要そうなのは、PBL・グループワーク・企業との共同作業ができるプロジェクトスペース、データ分析・情報教育を支えるICT環境、学生が滞在・交流できるcommons、キャリア・産学官連携の窓口、食堂・学生活動・交通アクセス等の基本的な生活環境などでしょうか。 施設整備は、老朽化対応だけでなく、学生募集、教育成果、就職、地域連携にどう効くかを基準に優先順位を付して検討すべきかと思います。
C	シンボル・造形物・食堂。
D	大学のシンボルを作ってほしい。ホテルに負けないトイレの改修をしてほしい。
E	大学の規模を大きくすることは難しいと考えます。小さくまとまっているのでもよい(旧工芸繊維大校舎は遠くて不便ではないか)。
F	北近畿には福知山公立大学にしか無いと言う地域性を生かした活動も大事ではないか。 「トイレ」の充実や一人で過ごせる場所の確保等も考えれば。
G	京都府北部地域には、市内の大学も多く入り込んでおり、公立大学の存在感もまだまだ小さいと感じる。 例えば、フィールドワークに係る移動の補助が充実すれば、活動も活発化し、大学の認知度も広がると考えます。

着眼点(5) 施設整備

16 学生食堂の更新を含む福利厚生施設の発展的整備について、ご意見があればお聞かせください。	
A	15と同じ
B	食堂・福利厚生施設は、学生生活の満足度と受験生・保護者への印象に直結するため、単なる附帯施設ではなく学生募集上の重要機能として捉えたいと思います。 学生が安心して食事・交流・自習・活動できる場所を整えることは、ロコミにも影響します(マズローの欲求階層でいえば根源的生理欲求に近い)。 運営面では、民間事業者・地域事業者との連携、地元食材活用、地域住民にも開かれた利用、価格の手頃さ、営業時間・キャッシュレス等の利便性を重視し、過大投資ではなく運営持続性と学生満足度を重視した整備が望ましいと考えます。
C	新規に建て替える場合の補助金の活用、また、「災害時の避難所」となる可能性の検討で価値が増大する。
D	市民が食べに来たくなるような食堂。
E	売店の充実(文房具や教科書などの販売はどうなっているのか)、健康・メンタルサポート、学生寮
F	開学当初は、地元自治会などに食堂を貸し出していた時もあった(消防団の慰労会・地域の集会など)持ち込みの時もあれば、食堂で準備をお願いした時もある(弁当・飲み物)。多い時には、60人ぐらいで利用した時もあった。 一般の人には地元の人でもあまり食堂が利用できることを知られていない、地元の広報誌、たより(特に大堀区)などをお願いしアピールしていけば、そこから皆さんに知れ渡り利用頻度も増えるし、学校の様子や出来事も食堂にあるチラシなどで見て貰えると思う。
G	—

着眼点(5) 施設整備

17 旧邸宅跡地の活用について、教育研究・地域連携・学生生活等の観点からご意見があればお聞かせください。	
A	15と同じ
B	旧邸宅跡地については、単独で大規模施設を整備するより、教育研究・地域連携・学生生活に資する小さな実証拠点として活用可能性を検討してみると良さそうでしょうか。 例えば、地域企業との共創スペース、学生起業・地域プロジェクトの活動拠点、短期滞在型の企業人・外部講師・卒業生交流スペース、地域住民に開いた学びの場など。 ただし、取得・整備・維持管理費に見合う利用率と成果が見込めるか、既存施設や民間施設で代替できないかを事前に比較すべきかと思います。
C	—
D	—
E	旧邸宅跡地の広さが分からないのですが、大学に近い場所であれば学生寮(学生マンション)のニーズはあるのではないかと。
F	—
G	—

着眼点(5) 施設整備

18	隣接する京都工芸繊維大学の施設・土地について、「知の拠点」としての機能強化の観点から、活用の可能性や取扱いについてご意見があればお聞かせください。
A	活用される場合には(教育内容とも連携することを前提に)施設の維持費用を捻出する事業者や強力な正の外部性を生み出す事業のために使われることが望ましいと思います。
B	京都工芸繊維大学の施設・土地については、取得ありきではなく、大学の競争力向上に必要な機能、ライフサイクルコスト、代替手段、財源、運営体制を比較したうえで判断すべきです。 また、取得しないと決する場合にも、福知山公立大学としての学生募集・教育研究・地域連携に必要な機能をどう担保するかを検討の重要性は残ります。 仮に取得する場合は、地域産業DX、共同研究、PBL、リカレント教育、外部資金獲得等に結びつく事業計画とKPIを起点に投資対効果の想定を確たるものとして意思決定すべきと考えます。
C	—
D	—
E	メインキャンパスから離れており、何かの施設に改造しても使いづらいのではないか
F	—
G	—

着眼点(5) 施設整備

19 その他、施設整備についてお気づきの点があればご自由にお書きください。	
A	—
B	施設整備については、大学側の要望と市の財政負担という二項対立としないため、第一に必要な機能、第二に利用者、第三に教育・学生募集・地域連携への効果、第四に初期投資、第五に維持管理費・更新費を含むライフサイクルコスト、第六に財源、第七にKPIをセットで整理すべきと考えます。市は当然に財政規律を担保する必要がありますが、大学の競争力維持投資を単なるコストとして扱うべきではない一方で、大学側も、投資を求める以上、定員確保、教育成果、外部資金、地域還元について具体的なリターン・成果を示す必要があるかと思います。
C	—
D	—
E	京都工芸繊維大施設も含め、成美学園の名残や現役施設があちらこちらにあることで、福知山公立大学の雰囲気を作れていないのではないかと。
F	第1回目の会議でも言いましたが、学校付近の狭い市道を大型バス(成美高校)がクラブ活動の為通行しているが、地元の住民からは、早く何とかしてもらいたいと要望が出ている。大堀区自治会でも福知山市に要望書も提出してある。先日の会議では、渡邊副市長より今年度買収し、次年度には工事に掛かりたいと言われていたので良かったのですが、工事に入る前には地元にも相談してから取り掛かってもらいたい。 施設整備については、築50年も経っているので古い設備をそのままにしておくと、「見た目が古いとか悪い」とかに留まらずに大学の機能そのものに影響し強いては大学の名前にまで影響すると思う。卒業生から「トイレ環境が悪い・空調が悪い・建物が古い・その他公立大学は、老朽化が進み進学するのは考えた方がいい」などと噂が出ると大学を選ぶ時の基準になるので、予算の事もあるが老朽化しているところを徐々に改善していければいいのではと思う。
G	—